

ドイツ大使館秋祭りレポート①

堀部 純音



猛暑が尾を引いていた9月17日に、ドイツ大使館隣の大使公邸で開催された夏祭りに参加してきました。ドイツ国旗と欧州旗を臨みながら西麻布の坂を登り、厳重な門の中にある警備室へ招待状と身分証を提示して公邸に足を踏み入れると、

全国日独協会若手の交流会というだけあって、どこか浮足立ったような、しかしそれでいてフレッシュな空気であるように感じました。中には中学生くらいの参加者もいらっやって世代が離れていました。程よい緊張感を感じながらホールの広さに驚いたものです。

定時になるとHans Carl von Werthern大使らからのご挨拶を頂戴した後、乾杯の音頭とともにそれぞれ歓談を楽しむ始めました。大使館専属のシェフによるドイツ料理のビュッフェがふるまわれたりなどおもてなしもいただき、いっそう会話の花もほころびました。

私個人では、公益財団法人日独協会（東京）の学生さんと知り合ってドイツの歴史についてのお話や、各大学における日独文化交流事情などをお話させていただいたことが一番印象に残っております。また、日独・独日協会会員の方だけでなく、大使館でインターンされているドイツ人職員さんともお話をさせていただきました。彼は大阪の西成地区が好きだそうで、少し驚きつつも彼の西成地区への旅行譚を聞く中で自分の文化の再発見というものを意識しました。

ほどなくして日独交流の象徴ともいえる公邸庭園で参加者の集合写真を撮った後に名残惜しくも会はお開きとなりました。入るときはあんなに重く感じた門に後ろ髪を引かれる思いで公邸を後にしました。

今回の催しでは、人と人とが面と向かって語らうことでSNSなどの文字情報や映像だけでは得ることのできない大変実りのある時間を過ごさせていただきました。これからの日独・独日関係を担っていく世代にこのような場を設けていただいたことにこの場をお借りして感謝の意を表したいと思います。

ドイツ大使館秋祭りレポート②

林 祐一郎

大阪日独協会へ加入して約一年半。これまで様々な形で日独交流活動に関わってきましたが、ドイツ大使館に足を踏み入れたのは初めてです。ドイツのハンス・カール・フォン・ヴェアテルン駐日大使が臨席される機会とあって、私は幾何かの緊張感と共に大使館の門を通りました。大使館の外観は私が思い描いていたよりも簡素でしたが、内装は気品溢れる洋館といった様相で、全国の日独協会から人々が集まっていた。

私は知人の少ない中、貴重な社交の機会にどのような会話をしようかと考えていましたが、途中で大使がこちらへやって来られて、我々と

会話をする機会が生まれました。私は自分が大学院でドイツの歴史を学んでいることを伝え、名刺を交換させていただきました。あの中で私は有象無象の一人に過ぎないのですが、大使と挨拶を交わしたことは、良き夏の思い出となりました。

しかし、ここで出会った方々の中で最も印象に残ったのは、二人の若者でした。一人は、大使館で研修生として働くドイツ人の方です。彼とは連絡先を交換し、現在でもドイツ語の名刺を作る際に文法的な間違いを直して貰うなど、ささやかではありますが付き合いが続いております。もう一人は、上智大学でドイツサークルに参加しておられる方です。彼とは同じドイツ愛好者として意気投合し、大使館を出た後も大阪日独協会の学生会員である堀部さんと共に喫茶店で話し込みました。

普段の協会活動で若者と交流する機会は少なかったのも、こうした邂逅は思いがけぬものでした。ここで私は、日本全国を探せば同じ志を持つ者が少なくないことを実感したのです。日本各地には沢山の日独協会があり、それぞれに交流活動を展開しています。各地が日独交流拠点としての矜持を持つことも重要ですが、広く「日本」という単位で「日独」関係を考えることも肝要であり続けるでしょう。

特別講演「海外での体験は未来への投資」

講師：Dr.シルビア・デーネ

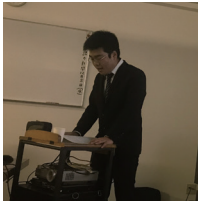
2018年11月21日に、大阪日独協会の主催により特別講演「海外での体験は未来への投資」が開催されました。講師は、NGES日本交換サービス専務理事のシルビア・デーネ博士です。現在はグローバルな時代になり、国際化の必要性が増えています。そこでデーネ博士によりNGES日本交換サービスをご紹介いただき、その実践的なプログラム、特に職人を目指す若い方々向けの職人プログラム（ドイツでの職人養成プログラム）についてご説明していただきました。



第3回ドイツナレッジセミナー

講師：林 祐一郎

2018年11月28日に、大阪日独協会の主催により第3回ドイツナレッジセミナーが開かれました。講師は大阪日独協会の学生会員であり、京都大学大学院の文学研究科修士課程一回生の林祐一郎さんです。皆さんは、ドイツへの旅と聞いて何を連想なさるでしょうか。例えば、中世のお城、ロマンティック街道、ビールや肉料理などがあげられるかもしれませんが、こうした意見が大半でしょう。そこで林さんはドイツ歴史



の深い部分を紹介するために、題材にベルリンの街を選んでその光と影を紹介してくれました。そこには軍事大国としてのプロイセンの繁栄や、その影の部分としてナチスの暗い歴史が潜んでいました。

2018年度クリスマス会

2018年度クリスマス会は12月12日に、ホテルモントレ ラ・スール大阪にて開催されました。神余副会長の挨拶で始まり、今年もビュッフェ形式で美味しいお食事を楽しみ、くじ引き大会で盛り上がりました。また日本ドイツワイン協会連合会小柳名誉会長によるオカリナ演奏があり、特別な夜を感じる演出で思い出に残る一夜となりました。



新年会

新年会は年が明けて1月11日に、アサヒスーパードライ梅田店にて開催されました。本年も京阪神日独協会の共同開催となりました。どのテーブルでも日独交流の話で盛り上がり、餅つきもあって素敵な新年を迎える会となりました。



全国日独協会連合総会

今年は、新潟港開港150周年なので、それを記念して新潟日独協会を主幹として全国日独協会連合総会が新潟市歴史博物館（みなとびあ）を中心に4月18日から4月20日までの3日間の日程で開催されました。ここでは総会内容を簡単に報告いたします。

総会は、4月19日の午前10時から開始され、先ず始めに事務局から加盟44協会のうち出席が24協会、委任状提出が12協会であり、併せて過半数を上回るのでこの総会は、成立するとの報告がありました。

続いて新潟協会・渡辺会長の開会宣言が行われ、その後にソプラノ歌手・柳本幸子氏の日独両国の国家斉唱がありました。新潟県知事や新潟市長の代理の方の挨拶、ドイツ総領事館のフィーツェ首席公使の挨拶がありました。全国日独協会連合会会長代行の木村敬三氏、ドイ

ツから全国独日協会連合会会長のシタンツェル氏（前駐日ドイツ大使）も来賓として挨拶されました。

その後、議事に移り、次の議事が決議されました。

- 2019年度日独協会連合会役員の選任
辞任：木村 敬三 会長代行
新任：中根 猛 氏（前駐独日本大使）
今まで連合会の会長代行を務められた木村氏が高齢を理由に辞任され、後任に中根氏が選任されました。
- 全国日独協会連合会規約改定の件
現行の副会長を約10としているところを13名以下とするに改定されました。
- 2018年度決算
昨年度の決算報告がなされ、瀬下監事から監査報告がなされ、昨年度の決算は、承認されました。
- （公財）日独協会（東京）の会報誌を全国の各協会へ配布する件
一部の協会から公益財団法人日独協会の会報を各協会へ配布してほしいという要望がありました。会報は、インターネット上でも読むことが可能であるため印刷体での配布はしないことに決定しました。
- 2019年度予算（案）
原案通り承認されました。
- 2020年の全国日独協会連合会開催地の決定。
東京に決定しました。

その他に日独ユースネットワークの活動報告、活動計画及び決算・予算案・監査報告などが山崎氏から報告されました。

午後からは、神林恒道氏（阪大文学部名誉教授）の基調講演「新潟とドイツ～医学との関りをめぐって」と題する大変興味深い講演が行われました。またドイツ人の建築デザイナー、カール・ベンクス氏の「古民家再生への取り組み」が記念講演として行われ、各地の古民家を再生した写真が紹介されました。

新潟港は、開港150周年を迎えましたが、新潟に1869年から1882年までドイツ領事館がありました。それを記念して新潟日独協会は、浄財を集め、新潟ドイツ領事館後記念碑を建立し、序幕式が行われました。土地は、新潟グランドホテルから無償で提供されたものだそうです。新潟県知事、新潟市長、フィーツェ首席公使、シタンツェル独日協会連合会会長、新潟グランドホテル社長が序幕式に参列し、立派な記念碑がお披露目されました。（事務局・和田）

